

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191700158		
法人名	株式会社アライブ		
事業所名	グループホーム椿		
所在地	岐阜恵那市山岡町下手向1620-2		
自己評価作成日	令和7年2月20日	評価結果市町村受理日	令和7年5月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyouvoCd=2191700158-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和7年3月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ともに笑い、ともに感じ、ともに生きる」の理念のもと、当施設は認知症の方が、車椅子生活となっても、安心して生活して頂ける設備を整えています。看取り介護を含め、ADLの変化による居住環境を変えることなく、慣れ親しんだ場所で生活を続けていく事ができます。住む人・働く人・訪れる人、すべての人が心落ち着き癒され、五感で想いを感じる建物と庭園が一体となった和モダンの造りとなっています。感染症予防に努めながら、自治会のご協力を頂き、地域行事への積極的な参加や、地域の方を交えた施設行事を計画実施し、入居者様と地域の皆様が、顔なじみの関係となれるよう、職員一丸となり取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所周りは車の往来が少なく、南面の広い駐車場を遮るものもない。静かな環境で、利用者はゆったりと思い思いの場所で過ごすことができます。管理者と職員は、利用者主体の支援をモットーとし、利用者の行動を制したり、「ダメ」と言わないことを心がけている。人手が足りない時は、会長や代表も現場に入り、事業所一丸となって利用者を支えている。実施には至らなかったが、地域のこども園の卒園式の際の交流会や移動販売車の巡回を依頼するなど、地域と積極的に関わりながら、地域密着型サービスの運営に取り組んでいる。職員が働き易い環境作りに努めながら、理念を実践している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ともに笑い、ともに感じ、ともに生きる」という理念のもと、地域の中でともに暮らす家族のような関係性が作れるよう日々努めています。	理念は、毎日記入する業務日誌の上部に記載している。常に目に出来るよう工夫し、職員への意識化を図っている。管理者は人手確保が困難な中、法人代表や会長と協力し、理念の実践ができるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設での行事や地域の行事にお互い参加させていただき、交流の機会を多く設けるように努めています。今年度末に当施設での山岡こども園との交流会や町内歯科医との合同学習会などを企画しています。	地域住民でもある管理者は、地域とのネットワークを活用し、地域とつながる企画に積極的に取り組んでいる。こども園の卒園式に、卒園児の兄弟を対象に利用者との交流を企画したが、人手不足で実施できなかった。地域サロンに出掛けたり、体験学習等を受け入れている。	利用者が楽しみにしていた移動販売車の巡回も、先方の都合で中止になった。地域の情報を収集し、新たな依頼先を探している。移動販売は、近隣の人も利用でき、地域住民との交流の場にもなる取り組みの実現に期待したい。
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のなかで入居者様の生活状況や運営状況などをお伝えしています。また地域の行事など情報交換に努めています。地区役様・ご家族代表様・市高齢福祉課職員様にご参加いただき、ご意見ご要望を伺いサービス向上に生かせるよう努めています。その他ご家族様には会議資料を送付し情報発信に努めています。	運営推進会議は隔月に開催している。地域の区長、市担当者、家族等の参加を得て、運営状況や事故報告、行事報告や予定を伝えている。意見交換の内容を運営に反映させている。行事の際の写真を添付した議事録を全家族に送付し、活動及び運営状況を伝えている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市高齢福祉課職員に運営推進会議に参加していただき担当者との情報交換を行っています。また市主催の研修会やイベントには積極的に参加しています。	担当者から、運営推進会議の際に地域の福祉情報の提供がある。補助金申請や処遇改善加算等の情報がメールで届き、運営が円滑に行えるよう連携出来ている。管理者は、市の多職種連携会議に参加し、情報収集に努めている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修やマニュアルにて職員に周知しています。また運営推進会議にて「身体拘束適正化委員会」の議題として取り上げさせていただきます。現管理者主任以降、身体拘束は一切行っていません。	身体拘束適正化委員会は、運営推進会議と併せて行い、身体拘束を行っていないことを報告している。毎月の職員全体ミーティングでも、事故やヒヤリハット事例を取り上げ、分析と改善対策について話し合い、支援方法を工夫しながら、拘束ゼロに努めている。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度より虐待防止委員会を設置し、施設内研修やマニュアルにて職員へ周知しています。職員のメンタル面も考慮し、必要に応じて声掛けや面談などにて対応しています。	前回の課題であった運営規程への表記、指針の整備、委員会の議事録の整備に取り組んでいる。管理者は虐待の芽を作らないためにも、職員とコミュニケーションを図り、動画研修を実施しながら、虐待防止に取り組んでいる。	

岐阜県 グループホーム椿

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議やマニュアルにて職員へ周知しています。また自主的に地域で行われる研修などへの参加を促しています。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前にはご家族様に施設見学をしていただき、契約について説明を行っています。ご不明な点等お伺いしご理解ご納得していただけるよう努めています。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様には入所時や面会時にご要望を確認しています。内容を職員間で共有し入居者様の生活がより良くなるよう努めています。また意見箱を設置し、ご家族様のご意見を頂けるよう努めています。	面会時や運営推進会議の際に、家族の意見を聞いている。来訪が困難な家族には、LINEを活用して利用者の様子を知らせ、意見や要望を聞いている。管理者が所持している携帯電話は、いつでも家族が連絡できる体制にしている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議の開催時には代表者、管理者を交え職員間での意見交換を行い反映しています。また、年2回の職員個別面談にて意見を徴収し反映しています。	管理者も現場に入り、必要な時は会長の協力もある。職員と同じ仕事をする事で、職員からの意見や要望を理解し、速やかに改善につなげている。毎月の定例会議は夜勤者以外、全員が参加して意見交換している。、個別面談での意見も収集し運営に反映させている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	代表者、管理者が現場に入ることによって職員の努力・勤務状況の把握に努めています。年2回の人事考課シートや個別面談を通じ、各自が向上心を持って働けるよう職場環境の整備に努めています。	利用者から離れた場所に休憩室があり、ゆとり休憩できる時間が確保されている。希望休暇も取得しやすい環境にあり、現在、育休取得者もいる。外国籍の職員には、住まいの確保や自転車の貸与で通勤をサポートしている。定年制を廃止し、職員の向上心を育てながら、働きやすい職場環境作りに努めている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ユニットリーダーや居室担当、委員会活動などスタッフ一人一人に役割や課題を持たせ、責任をもって業務にあたるよう指導しています。併せてOJTの実践により質の向上に努めています。また外部研修参加などへの受講支援をおこなっています。	資格取得を奨励し、研修受講はシフトに配慮している。資格手当も支給している。全職員が事業所の委員会活動のいずれかに属し、やりがいと役割を持って仕事ができる環境を整備し人材育成に努めている。外国籍の職員には翻訳アプリを活用しながら、OJT実践でスキル習得につなげている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	普段からの情報交換や研修会やイベント参加などを通じ交流させていただき、外部との繋がりをもつほか、お互いが質の向上できるような体制づくりに努めています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「ともに笑い、ともに感じ、ともに生きる」という理念のもと、安心して暮らしていただける家族のような関係性が作れるよう日々努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前の面談や入所後の交流の中から、ご本人様の暮らしへの希望や意向の把握に努め、ケアプランやサービス実践に反映していけるよう努めています。	管理者がケアマネジャーも兼ねており、入居前に本人、家族と面談してアセスメントを行っている。入居後に、思いや意向の再確認をしている。入居したばかりの利用者には、職員間で連携しながら環境に慣れるまで寄り添い、不安な事や思いを聞き、本人本位の支援につなげている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議や普段の会話の中から、ご家族様やご本人様のご意見ご要望を反映し、介護計画を作成するように努めています。担当者会議参加が難しいご家族様には、電話やメールなどで状況報告すると共にご意向を確認させていただきます。	課題であった家族参加の担当者会議は、重度化や動作が不安定な利用者の対応に追われ、継続課題としている。面会時や運営推進会議で家族の意見を聞き、意向を反映させた計画を作成している。来訪が困難な家族には、電話やメールで報告し意向を確認した上で作成している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	電子記録機器を導入し、毎日の申し送り、または介護記録や業務日誌などを記入し、職員間での情報共有を行う中で日々の実践や介護計画の見直しに努めています。	個別記録は介護計画の支援内容と連動しており、職員は計画に沿ったケアを実践している。日々の介護記録は、音声入力も可能なタブレット端末にて入力しており、外国籍職員も含め、どの職員も使っている。申し送り時は、タブレットで確認しながら口頭でも伝えている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のケア方法や関わりに固執しがちであるため、「他の方法があるのでは」と職員に提案し、ユニットミーティングなどで検討し、サービスの多機能化に取り組んでいます。	大雨警報発令時には、職員が子どもを連れて出勤している。職員も安心して仕事に従事でき、利用者は子どもに癒されるなど、柔軟な対応が良い結果に繋がっている。買い物代行や受診同行など、臨機応変に利用者・家族のニーズに対応している。	

岐阜県 グループホーム椿

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人様が在宅での生活により近い暮らしができるよう地域資源を把握し、できる限り利用させていただき、ご本人様の意向に沿えるよう努めています。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医については入所時に継続か変更かをご家族様と相談します。 必要に応じて職員の同行もいたします。 かかりつけ医との連携を図り、適切な医療が受けられるよう支援しています。	協力医の往診対応がないため、利用者の多くが従前のかかりつけ医の往診や、他の医療機関へ家族同行で受診している。かかりつけ医の変更希望には手続き等を支援し、往診や看取り受診ができるようにしている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様の状態変化には早期に対応し、入院期間の短期化に努めています。 また搬送先病院とは連携室を通じ情報共有に努め、入退院やその後の受診が円滑に行えるよう努めています。	入退院は管理者が窓口になり、看護師職員と対応している。療養時の利用者情報を共有し、早期退院に向け支援している。事業所は、口腔体操の励行で誤嚥性肺炎を予防したり、転倒リスクにはセンサーマットで骨折を防ぐなど、入院に至らない支援に努めている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重症化・終末期の方針をご家族様から聞き取り、施設で行える対応について説明をします。その後は状態に応じて何度もご家族様の意向を確認し、かかりつけ医や入院病院の協力のもと、施設での看取り介護、もしくは他施設や医療機関への転居を相談します。	契約時に重度化や看取りについて家族に説明をしている。利用者の状態を観ながら、家族の意向を再確認し、看取り希望も受入れている。他の施設や医療機関への移行等の相談にも応じている。家族と共に看取りができるよう取り組み、グリーフケアや職員の精神面のサポートにも力をいれている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変や事故発生に備え、管理者・看護師へのオンコール体制を整え、定期的に実技指導などを行い実践力の向上に努めています。また、緊急時マニュアルを作成し、有事には慌てず的確に対応できるよう周知しています。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回(1回は消防署立ち合い)の防災訓練を行い、災害時対応ができるよう徹底しています。また、運営推進会議で地域・行政との災害時の協力体制などについて随時確認をしています。	単独火災の時には、近くの公民館が避難所として使用でき、利用者と移動する実践訓練も行っている。駐車場の一角に倉庫を設置し、車椅子や災害に必要な物品を保管し、災害時に備えている。運営推進会議で地域住民の協力を依頼している。BCPを整備し、訓練も行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の会話の中から、その方にあった言葉がけを行い、尊厳を守れるよう努めています。行き過ぎた言葉がけを発見した際は、なぜそのようになったかを職員同士と一緒に考えるようにしています。	外国籍職員は文化の違いはあるが、接遇研修で利用者との接し方を指導している。男性便器の設置があり、利用時の粗相には優しく対応し、入浴支援も同性介助の希望に応じている。不適切な言葉遣いがあった際には、職員間で注意し合っている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活のご様子や会話の中から、想いや希望を把握し、ご本人様が自己決定できるよう支援しています。特に居室担当者には入居者様の良き代弁者となるよう支援してもらっています。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合ではなく、入居者様それぞれのペースや生活リズムを大切にし、支援させていただいています。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の配膳下膳などその方の出来ることを行っていただきます。在宅生活での食習慣を大切に、希望の方には自己負担になりますがパンを提供することもあります。委員会の活動により、行事食など食べる楽しみの機会を増やすことができます。	主食と汁物は職員が作り、副食は配食業者から届いたものを湯煎して提供している。利用者の希望メニューを聞いて献立に加えたり、その日の献立を黒板に書き、食べる楽しみにつなげている。五平餅を庭で焼くなど、季節を感じられるイベントも行っている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量記録や体重測定をもとに、個々の栄養状態を把握し、食事の提供を行っています。水分補給ではご希望のある方は好きな飲料を用意して提供しています。また、個別のおやつなどもご家族様にお届けいただいています。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、口腔内の状態把握ができるように努めています。また、口腔ケアをご自分で行えるよう、道具の選定など支援しています。年度末には町内歯科医との連携で。口腔ケアについての学習会を企画しています。	毎食後の歯磨きは、自分で出来る人には見守り、補助が必要な人には介助している。義歯や歯ブラシは洗浄殺菌や乾燥で清潔を保持し、定期的に歯ブラシも交換している。歯科医と連携し、職員は勉強会を通して口腔ケアの大切さを学んでいる。	

岐阜県 グループホーム椿

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握することで、失禁による不快感の軽減ができるよう努めています。可能な限りトイレでの排泄ができるよう、おむつ業者とも連携し、居室担当者を中心に検討をしています。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には入浴日を決めていますが、その日の気分や状態に合わせて、曜日の変更や入浴順番を配慮し、希望に添えるような支援をしています。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入所前の生活習慣や生活リズム、その日の体調に合わせて安楽に過ごして頂けるよう支援しています。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別カルテに薬剤情報を保管し随時閲覧できるようにしています。また、新規薬については日報などで申し送りを徹底しています。特に向精神薬の服用に関する場合は、様子観察と主治医への情報提供に努めています。	薬剤師が利用者ごとのボックスに日付と名前を確認しながら納めている。日常は管理者と看護師が管理している。昨年度の誤薬事例を分析した結果、時期や時間帯が判り、各職員が意識して注意することで誤薬が減っている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活習慣から、趣味や楽しみを把握し、可能な限り実現できるよう努めています。最近では食後の台拭きや床掃除が皆さんで行えています。暖かい時期は中庭の花壇や畑を行います	利用者の得意な事や出来る事を把握している。食器洗いや床掃除、花づくりなど、それぞれが役割として担い、毎日の生活の張りにつながっている。利用者が書いた習字をホールの一角に掲示し、出来栄の評価も、利用者の楽しみと継続に繋がっている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と一緒に周辺のお散歩など随時実施しています。ご家族様には外出外泊可能とお伝えしてありますが、受診以外での外出はほとんどありませんでした。(受診時に外食されるケースはありました)	春の花見や秋の紅葉狩りなど、季節が感じられるドライブを実施している。事業所周辺は車の往来も少なく、天気の良い日は毎日散歩に行っている。庭は自由に行き来ができ、日当たりの良いテラスでお茶を楽しむなど、気分転換を図っている。	

岐阜県 グループホーム椿

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金所持を希望される方以外は、施設の小口現金にて対応しています。ショッピングの際には、現金をお渡しし、支払いをしています。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参し、家族やご友人との電話を楽しむ方もおられます。ご本人様の希望があれば、職員が間に入り施設の電話でご家族様に電話をすることがあります。ご家族様にはビデオチャットのご案内をしています。が、今年度の実利用はありませんでした。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	開放的な共有空間で、各所に椅子やソファを設置しています。照明は暖色系で温かみを感じられ、南向きの窓からは外光を取り込んでいます。中庭を開放し園芸を楽しむことができます。一年を通じて四季を感じていただけるよう、施設内装飾もしています。	玄関ホールには職員紹介の掲示がある。ユニット毎に広さや明るさが異なり、利用者はユニット間を自由に行き来しながら、好きな場所で過ごすことができる。全館バリアフリーで、車椅子でもテラスで外気浴を楽しむことができる。浴室は脱衣室が広く、機械浴と個浴2つで対応している。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースではひとりの時間も確保できるよう、テーブルから少し離れた場所にソファを設置。気の合う仲間同士でも過ごすことができるように座る位置などに配慮しています。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族写真を飾ったり、使い慣れた家具や道具を持参して頂き、新しい環境の中でも居心地よく感じて頂けるよう努めています。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人様の意志に対し、残存機能を活かしながら、自立心が向上するような生活を職員と共に考え支援しています。		